

2-4 学校給食課

I 主な事業の紹介

学校給食は、成長過程にある児童生徒に栄養のバランスのとれた食事を提供することにより、心身の健全な発達に資することを目的として行われる教育活動です。

すなわち、学校給食は、食事という人間にとって最も大切な営みを児童生徒と教職員が共に行う中で、好ましい人間関係をつくり、学校生活を豊かにすることを目標のひとつにしています。また、子供たちが互いに協力し合い食事の用意、後片付けなどを行うことにより、勤労、奉仕の精神、協調性を身につけることができ、食事を通して心のふれあう生活指導の場となっています。

学校給食の目標

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

・学校給食費

(平成31年4月1日改定)

区 分	給食費 (月額 円)	1食単価 (円)
小学校	4,000	244
中学校	4,600	281

平成31年度から第3子以降の給食費補助制度を実施しています。

(1) 学校給食センター

戸田市の学校給食は、昭和32年7月から2校の小学校で開始されました。その後、昭和45年9月から小中学校のすべてにおいて、センター方式による完全給食が実施されました。

平成17年4月から、小学校において順次、単独校調理場方式の給食が開始されたことにより、学校給食センターからの配送校は、小学校3校、中学校6校となっています。

また、平成23年9月に現在の学校給食センターが完成し、同年10月から給食調理が開始されました。

平成30年度から学校給食センターでアレルギー除去食対応を実施しています。

■名称及び所在地 戸田市立学校給食センター

戸田市新曽南4丁目3番45号

電話048-442-5065

■施設及び概要

敷地面積 3,543.74㎡

建 物 鉄骨造2階建

建築面積 1,871.33㎡

延床面積 2,501.66㎡

1階 1,905.47㎡
2階 584.19㎡
機械室 12.00㎡

- ・竣 工：平成23年9月
- ・業務開始：平成23年10月
- ・調理能力：1日6,000食

・学校給食実施状況

(令和3年5月1日現在)

区 分	学 校 数 (校)	学 級 数 (学級)	1 日 平 均 食 数 (食)	給 食 実 施 回 数 (回/年)
小学校	3	58	1,912	182
中学校	6	99	3,790	181
計	9	157	5,702	

※給食数は児童生徒数と職員数も含む。

(2) 単独校調理場

平成17年4月から戸田第二小学校、芦原小学校の2校、平成18年4月から美谷本小学校、平成19年4月から戸田第一小学校、平成20年4月から美女木小学校、平成21年4月から戸田東小学校、平成22年4月から笹目東小学校、平成23年4月から新曽北小学校、平成24年4月から笹目小学校を加え9校の小学校で単独校調理場方式による学校給食が開始されました。

・学校給食実施状況

(令和3年5月1日現在)

区 分	学 校 数 (校)	学 級 数 (学級)	1 日 平 均 食 数 (食)	給 食 実 施 回 数 (回/年)
小学校	9	204	6,915	182

※給食数は児童生徒数と職員数も含む。

(3) 学校給食の役割

栄養のバランスのとれた食事を一日に三回食べることは、健康な生活を送る上で基本となるものです。

食生活が充実し児童生徒の体位が向上する一方で、栄養の偏り、不規則な食生活や運動不足などによる肥満、貧血、疲れ、集中力の欠如などの問題が指摘されています。また、社会の変化に伴い家庭のあり方が変容し、家族のだんらんも少なくなり、一人で食べることや子供だけで食事をする習慣など食生活上の問題も生じています。

このような食環境の中で、成長期にある児童生徒に対し健康的な食生活に関する理解を深めていくことは、学校給食の重要な役割と考えます。

・給食指導と栄養教諭・栄養職員の参画

栄養教諭・栄養職員は、学校給食を通じ児童生徒の健康教育を進める上で極めて大きな役割を担っています。学校給食の献立作成等に携わる栄養教諭・栄養職員が専門的立場から給食指導に参画し、幅広い活動をすることにより、給食指導の一層の効果を上げることが期待されています。

・多様な教育効果

給食の時間は、みんなで一緒に「食べる」学校生活の中で楽しい時間の一つです。その中で栄養に関することや日本の行事食・郷土料理について、また農業や漁業、食料の生産・加工・流通についてなど学習内容の理解が一層深められ、自然の恵みや働く人々への感謝の心を育てることもできます。

・学校と家庭・地域との連携

児童生徒の基本的な生活習慣や望ましい食習慣を育成していくためには、その生活の基盤である家庭や地域との連携を図り、それぞれの役割を踏まえながら協力し合って給食指導に当たることが求められています。